

平成21年10月19日

各位

上場会社名 東芝機械株式会社
代表者 取締役社長 飯村 幸生
(コード番号6104 東証第1部)
問合せ先 総務部長 栗原 陽一
(TEL. 055-926-5141)

業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年4月30日に公表しました業績予想および配当予想の修正を下記のとおりとすることといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成22年3月期 連結業績予想数値の修正

(1) 第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	43,000	1,300	500	100	0円66銭
今回修正予想(B)	37,200	△300	△1,100	△3,000	△19円73銭
増減額(B-A)	△5,800	△1,600	△1,600	△3,100	—
増減率(%)	△13.5	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績	72,103	8,486	8,150	4,804	30円60銭

(2) 通期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	88,000	3,300	2,000	1,100	7円23銭
今回修正予想(B)	76,000	300	△900	△3,000	△19円73銭
増減額(B-A)	△12,000	△3,000	△2,900	△4,100	—
増減率(%)	△13.6	△90.9	—	—	—
(ご参考)前期実績	121,890	11,536	9,891	5,302	34円18銭

(3) 修正の理由

当社グループを取り巻く経営環境は、世界的規模での景気低迷および設備投資抑制の影響を受け、当初予想を大きく下回る厳しい状況で推移しております。

当社事業の中核である成形機部門の射出成形機、ダイカストマシンは、自動車関連業界等の設備投資抑制の影響を受け需要低迷、工作機械部門においても汎用機の需要が低水準にとどまり、その他部門においても制御システム事業が設備投資抑制の影響から需要が低迷したことにより、第2四半期連結累計期間においては、当初予想を下回る見込みとなりました。

通期業績予想におきましても、製造業の稼働率は依然として低水準であり、設備投資抑制の状況は第3四半期以降も継続すると考えられ、同様に当初予想を下回る見込みであります。

また、当期の業績推移に鑑みて、繰延税金資産の回収可能性につきましては慎重に検討いたしました結果、第2四半期で繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額として計上する見込みです。

2. 剰余金の配当予想の修正

(1) 配当予想の内容

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想(平成21年4月30日)	3円00銭	3円00銭	6円00銭
今回修正予想	3円00銭	未定	未定
(ご参考)前期実績	6円00銭	6円00銭	12円00銭

(2) 配当予想の概要

当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。また、内部留保資金につきましては、財務体質の強化とともに、企業の継続的発展のため将来の事業展開等を戦略的に勘案し、生産設備、技術開発、海外展開等に有効に投資していく予定であります。

当社の基本方針に変更はございませんが、今回の業績予想の修正に伴い、期末配当につきましては現段階では未定とさせていただきます。

(注) 上記の業績予想等は、本資料の作成時点における経済環境や入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上